

1. 事業報告並びに事業計画

- (1-1) 日本放射線影響学会第 66 回大会 (2023 年) の準備状況 (大会長：柿沼志津子 会員)
- 1-1-1 開催日： 令和 5 年 (2023 年) 11 月 6 日 (月) ～8 日 (水)
 - 1-1-2 開催場所： グランドニッコー東京台場 (東京都港区台場 2-6-1)
 - 1-1-3 テーマ： 「放射線の真の理解 ～社会との調和と共生を目指して～」
 - 1-1-4 副大会長は小林純也 副理事長、実行委員長は中島徹夫 会員 (量子科学技術研究開発機構)、事務局長は飯塚大輔 学術評議員で運営する。
 - 1-1-5 演題は、シンポジウム 5 題 (うち ICRP サテライトシンポジウム 2 題)、ワークショップ 5 題、教育セッション 1 題、イブニングセッション 1 題、口頭発表 61 題、ポスター発表 100 題の登録があった。ICRP2023 との同時開催を活かし、ポスターセッションは合同で行うとともに、e-ポスター発表希望者には ICRP2023 のプラットフォームを用いた発表も可能となっている。
 - 1-1-6 シンポジウム 5 題、教育セッション、イブニングセッション、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、会員総会、授賞式、受賞講演は Zoom によるオンライン配信を行う。オンライン参加者に視聴が可能となっている。
 - 1-1-7 11 月 7 日 (火) 18 時からイブニングセッションが開催された後、「Networking session」として、会員の交流の場を設ける (無料)。短い時間ではあるが、できるだけ多くの方に参加いただき、会員間の交流を深めてほしい。
- (1-2) 日本放射線影響学会第 67 回大会 (2024 年) の準備状況 (大会長：岡崎龍史 学術評議員)
- 1-2-1 開催日： 令和 6 年 (2024 年) 9 月 25 日 (水) ～28 日 (土)、対面開催
9 月 27 日 (金) ～28 日 (土) 第 12 回日本放射線事故・災害医学会との合同大会
SIT (Scholars in Training) ワークショップ (講師：甲斐倫明 先生、續輝久 先生+α) は 9 月 28 日 (土) に変更
 - 1-2-2 開催場所： 北九州国際会議場 (北九州市小倉北区浅野 3 丁目 9-30)
 - 1-2-3 4 大シンポジウムテーマ 医療被ばく (藤瀬俊王 先生+2 名の外国人招聘予定)、低線量放射線影響 (Tom Hei 先生)、放射線教育 (松本義久 常任理事)、原子力・放射線災害対応 (山下俊一 先生、ウクライナの先生を招聘予定)。
 - 1-2-4 合同大会内容：
9 月 27 日：放射線教育と原子力・放射線災害対応のシンポジウム
9 月 28 日：最近の事故事例 (明石真言 先生)、アメリカ原発の現状と法令規制と推進 (長谷川有史 先生)、福島第一原発事故対応 (東電産業医から、産業医科大学の協力体制、災害産業保健)、福島原発事故対応に関しては日本医師会認定産業医の単位取得可能とする予定。
 - 1-2-5 テーマ：「語ろう！放射線 -これからの放射線課題のいしずえ-」
 - 1-2-6 HP は 11 月～12 月にオープン予定。
 - 1-2-7 シンポジウム 1～2 題、ワークショップ 4～5 題募集予定。募集締め切りは 4 月 1 日予定。
 - 1-2-8 一般演題募集期間は 5 月 1 日～6 月 14 日予定。
 - 1-2-9 実行委員長は香崎正宙 学術評議員 (産業医科大学)、プログラム委員長は小嶋光明 理事で運営する。
 - 1-2-10 「医療被ばく」あるいは「原子力・放射線災害対応」のシンポジウムを放射線影響懇話会 (会長：岡崎龍史 学術評議員) と共催予定である。
 - 1-2-11 懇親会を 9 月 27 日 (金) リーガロイヤルホテル小倉で開催予定。
 - 1-2-12 市民公開講座は 9 月 25 日 (水) 「(仮) 最近の放射線治療」の予定。
 - 1-2-13 国際学会の体をなすため、日本以外 2 カ国以上外国籍の方の参加が必要です。もし研究室に外国籍の方がいらっしゃれば、ご教示ください。
- (1-3) 日本放射線影響学会第 68 回大会 (2025 年) の準備状況 (大会長：田代聡 理事長)
- 1-3-1 開催日： 令和 7 年 (2025 年) 10 月 24 日～26 日
 - 1-3-2 開催場所： 広島国際会議場
 - 1-3-3 テーマ： (仮) 原爆被爆 80 年からの放射線影響研究
 - 1-3-4 第 6 回アジア放射線研究会議と合同で行う予定である。
- (1-4) 共催・協賛・後援
- 1-4-1 令和 5 年 (2023 年) 5 月 31 日 (水) ～令和 5 年 (2023 年) 10 月 20 日 (金) までに共催・協賛・後援を決定した学術集会等は下記参照。
 - 【協賛】日本放射化学会第 67 回討論会 (2023)、主催：一般社団法人日本放射化学会、開催日：2023 年 9 月 21 日 (木) ～ 23 日 (土)、開催場所：広島大学東広島キャンパス、広島大学学士会

館、サタケメモリアルホール

- 【協賛】第 60 回アイソトープ・放射線研究発表会、主催：公益財団法人 日本アイソトープ協会、開催日：令和 5 年（2024 年）7 月 5 日（水）～7 日（金）、開催場所：日本科学未来館
- 【協賛】QST 高崎サイエンスフェスタ、主催：国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）量子技術基盤研究部門 高崎量子応用研究所、開催日：令和 5 年（2023 年）12 月 5 日（火）～6 日（水）、開催場所：高崎シティギャラリー
- 【協賛】第 32 回放射線利用総合シンポジウム、主催：大阪公立大学研究推進機構、（一社）大阪ニュークリアサイエンス協会、開催日：令和 6 年（2024 年）1 月 22 日（月）、開催場所：ONSA 会議室

(1-5) 各種推薦

- 1-5-1 第 61 回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員として、飯塚大輔 学術評議員を推薦した。
- 1-5-2 福島県「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」の部会員として、鈴木元 名誉会員を推薦した。
- 1-5-3 日本放射線研究連合次期幹事として、島田義也 監事、飯塚大輔 学術評議員、原田浩 学術評議員を推薦した。

(1-6) 理事会の開催

令和 5 年度第 3 回理事会（令和 5 年（2023 年）6 月 25 日（日））を対面形式で、第 4 回理事会（令和 5 年（2023 年）7 月 26 日（水）～28 日（金））、第 5 回理事会（令和 5 年（2023 年）8 月 25 日（金）～29 日（月））、第 6 回理事会（令和 5 年（2023 年）10 月 4 日（水）～6 日（金））をメール会議で開催した。

(1-7) 社員総会の開催

令和 5 年度第 1 回（定時）社員総会（令和 5 年（2023 年）6 月 25 日（日））を対面形式で開催した。

(1-8) 令和 5 年度選挙

令和 5 年度冬には学術評議員・理事・理事長選挙が予定されており、第 6 回理事会において香崎正宙 学術評議員、鶴岡千鶴 学術評議員、舟山知夫 学術評議員、三浦富智 学術評議員の計 4 名を選挙管理委員会委員に選任し、委員間の互選により三浦富智 学術評議員を委員長と決定した。学術評議員選挙告知を 11 月上旬に開始すべく準備を進めた。なお、学術評議員の選出数（当選者数）は令和 3 年度選挙と同じく 30 名とすることが、第 6 回理事会で決定した。

2. 各委員会からの活動報告及び活動予定

(2-1) 財務委員会（委員長：細谷紀子 副理事長、副委員長：田代聡 理事長）

- 2-1-1 随時、予算の執行状況を調査し、特段の問題が無いことを確認した。
- 2-1-2 科研費（令和 1～5 年度）による JRR 誌の掲載費用支援を継続中。40 歳以下の若手研究者を第一著者とする原著論文（Regular paper、Short communication）、および、全ての年代の研究者を第一著者とする総説（Review）に対し、年間 15 篇程度を上限に、支援を行う予定である。令和 5 年度（2023 年度）の支援件数は、令和 5 年（2023 年）10 月現在、1 件である。
- 2-1-3 学術大会等に招請する非会員や学会関連用務に会員を招請する場合の旅費（交通費・宿泊費）の支払における統一した方針を定める必要性が増してきたことを背景に、財務委員会で旅費取扱規程（案）を作成した。規約委員会において、定款や既存の規程等との齟齬が無いことが確認された後、第 5 回理事会での承認を経て、「日本放射線影響学会旅費取扱規程」が制定され、令和 5 年（2023 年）8 月 30 日を施行日として運用を開始した。
- 2-1-4 令和 6 年度（2024 年度）以降も科研費を獲得すべく、令和 5 年（2023 年）9 月 6 日に、令和 6 年度（2024 年度）研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の申請を提出した。
- 2-1-5 令和 6 年度（2024 年度）収支予算書を作成した。
- 2-1-6 令和 5 年（2023 年）10 月 24 日に財務委員会を開催し、令和 6 年度（2024 年度）予算案の審議を行った。

(2-2) 編集委員会（委員長：近藤 隆 監事、担当理事：松本義久 常任理事）

- 2-2-1 計画通り JRR 誌を定期的に発行した。
- 2-2-2 疫学分野の担当者が少ない事情もあり、新しく Associate editor を選任した。
- 2-2-3 寺島論文賞候補論文に関して、2023 年度 Journal of Radiation Research 寺島論文賞を、例年通り公募

し、選考の結果、現所属 北海道大学大学院 医学研究院 病原微生物学教室 坂本裕貴 氏の以下の論文に決定した。

Yuki Sakamoto, Tetsuya Kokuta, Ai Teshigahara, Kenta Iijima, Hiroyuki Kitao, Minoru Takata, and Hiroshi Tauchi. Mitotic cells can repair DNA double-strand breaks via a homology-directed pathway. JRR vol. 62, iss.1. <https://doi.org/10.1093/jrr/rraa095>

(2-3) 広報出版委員会（委員長：富田雅典 常任理事、副委員長：大野みずき 学術評議員、論文紹介企画小委員会委員長：安井博宣 学術評議員）

- 2-3-1 メーリングリスト (eikyo_tsushin-ml@criepi.denken.or.jp) による学会通信配信を随時実施した。添付ファイルは自動暗号化されるため、添付ファイルの配信希望がある場合、会員マイページ「学会通信配信一覧」に添付ファイルとともに掲載した後に、「添付ファイルあり。会員マイページから閲覧・ダウンロード可。」の旨を記載して、テキストのみをメール配信している。現在、会員からの配信依頼は、Forms で受け付けている。令和 5 年（2023 年）は 10 月 17 日（火）時点で 179 件配信した（令和 4 年（2022 年）は 280 件）。配信担当者（委員長）の負担軽減のため、年末・年始に加え、夏季にも 1 週間の配信休止期間を設けた。現在の登録者数は 726 名（昨年の現メーリングリスト運用開始時 726 名）である。
- 2-3-2 My Page の会員情報において、メールアドレスが変更されると自動的に配信担当者に通知される仕組みとなっていたが、メールが届かない不具合が生じていた。最新の会員名簿を基に、令和 5 年（2023 年）10 月 10 日付で送信先リストを更新し、変更が反映されていなかった 21 件のアドレスを更新した。現在、改善を検討中である。なお、配信済みの影響学会通信は、My Page より閲覧可能である。
- 2-3-3 学会ホームページの更新を随時実施するとともに、更新・活用されていないページの削除や誤字の修正等を行った。
- 2-3-4 英語版 Web ページを作成して公開した。また、バナー広告を掲載するために公式サイト改修を検討した。今後、掲載基準と料金を確定し、運用を開始する予定である。
- 2-3-5 最新論文情報を、令和 4 年（2022 年）は計 12 件掲載した。令和 5 年（2023 年）は 10 月 17 日（火）までに 16 件掲載した。会員からの論文紹介記事を随時受け付けている。

(2-4) 放射線災害対応委員会（委員長：松本義久 常任理事、副委員長：宇佐美徳子 会員）

- 2-4-1 委員会はメール会議を中心に進めており、これまでに以下の事案に対応した。
- 2-4-2 令和 5 年（2023 年）度の放射線セミナーは、10 月 20 日時点で 6 校において 10 回実施した。今後、4 回の実施が予定されている。郡山市教育研修センターとの連携による郡山市内小中学校での実施が 13 回、南会津中学校で 1 回である。今年の放射線セミナーは東工大基金理科教育振興支援「ものづくり人材の裾野拡大ならびに STEM 教育の推進支援プロジェクト」の採択を受けている。また、派遣旅費の一部は量子科学技術研究開発機構から支援を受けている。
- 2-4-3 一般の方からの問い合わせ 2 件に回答した。
- 2-4-4 福島第一原子力発電所の ALPS 処理水の海洋放出が 8 月 24 日に開始されたことで、トリチウムの放射線による健康影響に関する社会的な関心が高まっている。本学会では方針決定前よりトリチウムの健康影響に関する解説資料や JRR に掲載された総説などを公開しているが、一般の方々にさらにわかりやすくし、海洋放出の実態についての情報を加えた簡易版の作成を進めている。完成次第、ホームページで公開を予定している。

(2-5) 企画委員会（委員長：田代聡 理事長、副委員長：笹谷めぐみ 学術評議員、自然災害対応担当理事：田代聡 理事長、SIT プログラム小委員会委員長：平山亮一 学術評議員）

- 2-5-1 令和 5 年（2023 年）第 1 回社員総会（2023 年 6 月 25 日（日））と同時開催のキャッチアップセミナーを開催した。
- 2-5-2 令和 5 年（2023 年）の第 66 回大会は、柿沼志津子 会員（量子科学技術研究開発機構）を大会長として東京で開催する。なお、第 66 回大会は日本保健物理学会と国際放射線防護委員会（ICRP）シンポジウムと合同で行う予定である。
- 2-5-3 令和 6 年（2024 年）の第 67 回大会は、岡崎龍史 学術評議員（産業医科大学）を大会長として北九州市で開催する。なお、第 67 回大会の一部を日本放射線事故・災害医学会と共催して行う予定である。
- 2-5-4 令和 7 年（2025 年）の第 68 回大会は、田代聡 理事長（広島大学）を大会長として広島市で開催する。なお、第 68 回大会は第 6 回アジア放射線研究会議と合同で行う予定である。
- 2-5-5 令和 8 年（2026 年）の第 69 回大会の公募を開始した。
- 2-5-6 SIT（Scholar-in-Training）プログラム小委員会が、2023 年 9 月 24 日（日）に、量子科学技術研究開発機構（千葉地区量子生命棟セミナー室）にて、第 3 回 SIT ワークショップを開催した。
- 2-5-7 日本アイソトープ協会が主催するアイソトープ・放射線研究発表会へ協賛学協会として企画運営に

参画し、特別講演とパネル討論の企画案を提案した。

2-5-8 放射線リスク・防護検討委員会との合同により、第2回(2023年6月16日(金))、第3回(2023年8月4日(金))ICRP次期主勧告ウェビナーを開催した。

2-5-9 2023年の第66回大会開催にむけて、大規模自然災害に関する大会参加費免除の案内を行った。

(2-6) グローバル化委員会(委員長:今岡達彦 副理事長、副委員長:三浦雅彦 学術評議員、若手部会部会長:神崎訓枝 会員、FLASH研究部会部会長:平山亮一 学術評議員、庶務補佐:藤通有希 会員)

2-6-1 ICRR2023において国際放射線研究連合(IARR)の次期 Councilor の選挙が行われ、JARRからの被推薦者は残念ながら落選となった。日本からはJARR推薦枠として原田浩 学術評議員が選ばれた。

2-6-2 ICRR2023におけるIARR General Assemblyへ日本からは田代聡 理事長、松本義久 常任理事、原田浩 学術評議員、浜田信行 学術評議員にご出席いただいた。

2-6-3 JARRでは、2024年からの次期幹事の推薦依頼をJARR構成学会に依頼しており、影響学会からは島田義也 監事、原田浩 学術評議員、飯塚大輔 学術評議員が推薦された。

2-6-4 ICRP2023のサテライトイベント(日本放射線影響学会(JRRS)主催、日本放射線腫瘍学会(JASTRO)生物部会後援、日本学術振興会(JSPS)研究拠点研究事業協賛)として、第66回大会において「Next generation of radiotherapy and radioprotection based on precise radiosensitivity」を令和5年11月6日13:15~15:15に開催する(JRRS側オーガナイザー:原田浩 学術評議員、JASTRO生物部会側オーガナイザー:松本義久 常任理事)。松本義久 常任理事が、放射線影響協会及びJARRに海外研究者招へい旅費の助成を申請し、採択された。

2-6-5 本学会とJASTROの覚書に基づく合同企画として、令和5年(2023年)は、JASTRO第36回学術大会(大会長:茂松直之 理事長、会場:パシフィコ横浜ノース)にて学会合同シンポジウム(日本放射線影響学会)「放射線増感効果が期待できる新薬」(日時:12月1日(金)14:20~16:20、座長:原田浩 学術評議員・三浦雅彦 学術評議員、演者:柴田淳史 学術評議員、石川仁 先生(QST)、高橋智聡 先生(金沢大学)、山本昇 先生(がんせ・中央病院))を開催予定である。

2-6-6 日本放射線技術学会との学術交流に関する覚書の締結に向けて、学会間の承認手続きを進めている。

2-6-7 若手部会では、令和5年(2023年)9月28日に弘前大学で第3回若手放射線影響研究会を「放射線と数理モデル」というテーマで開催し、金沢大学大学院 新学術創成研究科 融合科学共同専攻 牧山桂 会員に若手優秀発表賞を授与した(担当者:内之宮光紀 若手部会役員、弘前大学大学院保健学研究科の共催、キャリアパス・男女共同参画委員会とJSPS事業「生体内の複雑系を対象とする統合放射線科学の国際研究拠点の形成」の後援)。第66回大会では、若手部会員総会を開催して、活動報告、意見聴取、若手優秀論文賞1名を表彰する予定である。第66回大会ワークショップ「留学のすゝめ season2」では、若手のキャリアパス支援を目的として、ロールモデルとなる留学経験のある若手研究者の講演を予定している(担当者:孫略 若手部会役員、キャリアパス・男女共同参画委員会とJSPS事業「生体内の複雑系を対象とする統合放射線科学の国際研究拠点の形成」の共催)。また、現代のライフスタイルの多様化に目を向け、若手部会規程の見直しを行い、満40歳以上であっても若手部会の活動を継続できる条件を定める改訂を行った。令和5年(2023年)10月19日時点で部会員数は98名(令和5年(2023年)6月8日時点:79名)で順調に増加している。

2-6-8 FLASH研究部会では、国内でのFLASH研究を実施している施設や実施を予定している研究施設、研究組織をリストアップして、会員への情報公開に向けて取りまとめを行っており、今後も継続する。

(2-7) キャリアパス・男女共同参画委員会(委員長:飯塚大輔 学術評議員、副委員長:石川純也 学術評議員、担当理事:坂田律 理事)

2-7-1 第66回大会の2日目(令和5年(2023年)11月7日(火)11:30~12:45)に、第10回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」を開催する(資料2-7-1)。日本放射線影響学会で男女共同参画に関するセミナーが始まり、今回で10回目を迎える。為近恵美氏(横浜国立大学)を特別講師としてお招きするとともに、6名のパネリストによるパネル討論を通じて、男女共同参画に関し、社会や学会において、この10年で変わったこと、変わらないことを整理し、今後、どのような活動が求められるのか考えたい。「男女共同参画」という言葉を越えた、「影響学会員が抱えるさまざまな問題」にどのように究極的なアプローチができるのか、議論できれば幸いである。あらゆる年代の会員の皆様のご参加をお願いしたい。

2-7-2 男女共同参画に関わる大会参加支援として、第66回大会で「託児費用援助」の申請を受け付けるべく、大会事務局と連携して募集要項を作成し、申請受付の予告を令和5年(2023年)10月12日付で学会通信にて配信した。また、大会長のご配慮により、会場内託児および家族同伴で参加される場合の同伴者パス(無料)を設けていただいた。

2-7-3 第66回大会大会長の協力のもと、参加登録システムで属性調査(性別、所属、職階、年代)が実施さ

れている。後日、学会通信、および、委員会 HP で集計結果を発表する。

- 2-7-4 令和 5 年（2023 年）11 月 7 日（火）（第 10 回委員会企画セミナー終了後）から 11 月 30 日（木）にかけて、2023 年度キャリアパス・男女共同参画アンケートを Google フォームを用いて実施する予定である。第 10 回委員会企画セミナーの感想や今後のセミナーへの要望、今後の年次大会開催地での託児サービス利用のニーズ、様々な事情を抱える会員が学会活動に参加しやすくするためのアイデアなど、キャリアパス・男女共同参画活動に関する意見・要望を広く収集する内容となっている。
 - 2-7-5 平成 28 年（2016 年）度より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟学協会として参加している。令和 5 年（2023 年）10 月 14 日（土）に第 21 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが開催された。本学会としては、例年通りシンポジウム資料集に本学会のキャリアパス・男女共同参画に関する活動報告（資料 2-7-2）を掲載した。
 - 2-7-6 学会通信やホームページを活用した情報発信を適宜行った。
- (2-8) 規約委員会（委員長：小林純也 副理事長、副委員長：鈴木正敏 学術評議員）
- 2-8-1 令和 5 年度（2023 年度）第 1 回規約委員会を令和 5 年（2023 年）7 月 24 日（月）～8 月 8 日（火）にメールで開催し、理事会、社員総会での議論に基づいて依頼があった若手部会部会長の社員総会オブザーバー参加について学会規程の改定を議論し、改定案を理事会に報告した。改定案は第 5 回理事会で承認された。改定案は続いて、令和 5 年度第 2 回社員総会で審議される予定である。
 - 2-8-2 理事会から依頼あった理事会議事録への監事押印の省略について第 1 回規約委員会で検討を行ったが、法人法で代表理事（理事長）及び監事の押印が定められていることから省略不可であることが判明し、そのため、事務局による代理押印の導入を理事会に提案し、第 5 回理事会で了承された。なお、第 4 回理事会議事録より代理押印の運用を開始した。
 - 2-8-3 令和 5 年度（2023 年度）第 2 回規約委員会を令和 5 年（2023 年）9 月 9 日（土）～9 月 20 日（水）にメールで開催し、理事会での議論に基づいて依頼があった会員規程の改定（①学生会員に社会人大学院生を含めること、②会員歴 10 年を終身会員移行条件とすること）について検討を行い、改定案を理事会に報告した。改定案は第 6 回理事会で承認された。
 - 2-8-4 第 2 回規約委員会において、理事会での議論に基づいて依頼があった選挙規程の改定（①理事選挙において届出候補者数が定数以下の場合に投票を省略すること、②監事選挙において監事候補推薦委員会を設置すること、③選挙規程の下に細則等の制定を可能すること）について検討を行い、改定案を理事会に報告した。改定案は第 6 回理事会で承認された。改定案は続いて、令和 5 年度第 2 回社員総会で審議される予定である。
 - 2-8-5 会員の定義は会員規程とともに定款にも定められており、学生会員に社会人大学院生を含める変更については定款改定も必要なことから、令和 6 年度から運用開始できるように理事会、社員総会に変更案を提案する。今回の選挙規程改定と関連して、監事候補推薦委員会に関する詳細事項を選挙規程細則案としてとりまとめ、理事会に提案し、現理事会の任期末までに細則制定を完了する。
- (2-9) 賞等選考委員会（委員長：坂田律 理事、副委員長：篠原美紀 会員）
- 2-9-1 木原記念財団学術賞等、事務局宛に届いた受賞候補者推薦募集をメーリングリストを通じて行ったが、学会推薦への応募はなかった。今後も外部からの候補者推薦については随時対応する予定。
 - 2-9-2 令和 4 年度第 7 回理事会における第 65 回大会に伴う学生旅費等援助についての議論結果を受け「学生旅費援助申請書」の変更について賞等選考委員で検討し、財務委員会、理事会での承認を経た新様式をホームページに公開した。
 - 2-9-3 17th International Congress of Radiation Research (ICRR2023) の旅費援助募集への 5 件の応募について審議、理事長への推薦を行い、全員への援助が承認された。対象者よりの報告書提出、援助額決定を完了しており、領収書原本を受領した後振込を行う。
 - 2-9-4 学生旅費援助申請に対し応募のあった 13 名について援助の可否を審議し、オンライン参加登録者 1 名を除く 12 名への旅費援助を採択し、理事長への推薦を行い援助が決定された。
 - 2-9-5 令和 5 年（2023 年）度日本放射線影響学会各賞への推薦について審議し、委員会より、学会賞（原田浩 会員）、奨励賞（石川純也 会員、藤通有希 会員）、功績賞（松本英樹 会員）、岩崎民子賞（篠原美紀 会員、尚奕 会員）、功労会員（小澤俊彦 先生）、名誉会員（古澤佳也 先生、藤堂剛 先生）を推薦し、理事会により受賞が決定された。第 66 回大会にて授賞式を行う予定。
- (2-10) 学術委員会（委員長：坂田律 理事、副委員長：篠原美紀 会員）
- 2-10-1 第 65 回大会優秀演題発表賞の選考委員として、小笹晃太郎 委員を推薦した。
- (2-11) 倫理委員会（委員長：田内広 学術評議員、担当理事：富田雅典 常任理事）
- 2-11-1 日本放射線影響学会第 66 回大会実行委員会からの要請により、学術集会における COI 申告について、

基本フォーマットを確認し実行委員会に回答した。なお、営利企業所属の会員等が講演する場合の COI 申告についても基本フォーマットを協議し、実行委員会へ提示した。

(2-12) 教育研修委員会（委員長：吉野浩教 理事、副委員長：野田朝男 会員）

- 2-12-1 放射線影響研究所が主催する「第 13 回生物学者のための疫学研修会」が令和 5 年（2023 年）8 月 21 日（月）、22 日（火）に対面と Zoom 会議を繋いだハイブリッドで開催された。
- 2-12-2 教育研修委員会企画・主催の「六ヶ所村次世代エネルギーパーク及び日本原燃の見学会」を弘前大学大学院保健学研究科との共催で令和 5 年（2023 年）9 月 29 日（金）に開催した。見学会には計 15 名の方が参加し、参加者から「大変勉強になった」などの意見をいただいた。
- 2-12-3 研修会等の情報 5 件を学会通信を通して会員に配信した。

(2-13) 放射線リスク・防護検討委員会（委員長：小嶋光明 理事、副委員長：小林純也 副理事長）

- 2-13-1 ICRP 次期主勧告ウェビナーを企画委員会と共催で 4 回にわたって開催する（資料 2-13-1）。第 1 回は 4 月 28 日（金）、第 2 回は 6 月 16 日（金）、第 3 回は 8 月 4 日（金）に開催した。参加者数は、第 1 回が 208 名、第 2 回が 269 名、第 3 回が 215 名であった。影響学会会員のみならず、関連学会等（日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本医学物理学会、日本保健物理学会など）から多くの参加がみられた。第 4 回は 10 月 27 日（金）の 16 時から開催予定で、テーマは「原爆被ばく者の固形がんにおける線量反応関係の最近の知見（坂田律 先生（放射線影響研究所）」と「医療被ばく者の健康リスク（吉永信治 先生（広島大学）」である。10 月 19 日時点での参加申し込み数は 251 名となっている。第 4 回のウェビナー終了後に、影響学会会員限定で全 4 回の講演の見逃し配信を行う予定である。
- 2-13-2 今後の活動内容については、ICRP 次期主勧告ウェビナーの印象記を「放射線生物研究（赤本）」に投稿する予定である。また、ウェビナー参加者に今後取り上げて欲しいテーマのアンケートをとり、来年も同様のウェビナー開催を検討していきたい。

(2-14) 学会事務局

- 2-14-1 会員動向：令和 5 年（2023 年）6 月 1 日（木）現在（括弧内は令和 4 年（2022 年）8 月 31 日（水）時点「マイページ」登録者数＊在籍者のみ）
 - 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数 740（780）名・うち女性 162（176）名
正会員 567（587）名・うち女性 134（140）名、学生会員 47（71）名・うち女性 14（24）名、海外会員 10（18）名・うち女性 1（2）名、名誉会員 40（39）名・うち女性 1（0）名、功労会員 7（6）名・うち女性 0（0）名、終身会員 69（59）名・うち女性 12（10）名。
- 2-14-2 会員動向：令和 5 年（2023 年）10 月 20 日（金）現在（括弧内は令和 5 年（2023 年）6 月 1 日（木）時点「マイページ」登録者数＊在籍者のみ）
 - 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数 757（740）名・うち女性 166（162）名
正会員 545（567）名・うち女性 126（134）名、学生会員 85（47）名・うち女性 26（14）名、海外会員 9（10）名・うち女性 1（1）名、名誉会員 40（40）名・うち女性 1（1）名、功労会員 7（7）名・うち女性 0（0）名、終身会員 71（69）名・うち女性 12（12）名。

以上

日本放射線影響学会 / 第10回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

LS2 影響学会における 男女共同参画の『あゆみ』と『これから』

2023年11月7日(火) 11時30分～12時45分
グランドニッコー東京 台場・Room A (現地開催およびオンライン配信)

日本放射線影響学会で男女共同参画に関するセミナーが始まり、今回で10回目を迎えます。男女共同参加に関し、社会や学会において、この10年で変わったこと、変わらないことを整理し、今後、どのような活動が求められるのか考えたいと思います。

また、男女共同参画が推進されるに伴い、その考え方への多様な意見や、LGBTQ+といったダイバーシティへの理解も求められます。「男女共同参画」という言葉を超えた、「影響学会員が抱えるさまざまな問題」にどのように究極的なアプローチができるのか、議論できれば幸いです。あらゆる年代の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

Program

座長：飯塚 大輔（量子科学技術研究開発機構）、保田 隆子（日本女子大学）

❖ 開会挨拶（キャリアパス・男女共同参画委員会 委員長 飯塚 大輔）

第1部・特別公演

為近 恵美 氏（横浜国立大学 / 応用物理学会D&I委員）

第2部・パネル討論

大塚 健介 氏（電力中央研究所） / 富田 雅典 氏（電力中央研究所）
細谷 紀子 氏（東京大学） / 柿沼 志津子 氏（量子科学技術研究開発機構）
李 恵子 氏（量子科学技術研究開発機構） / 飯塚 大輔

❖ 閉会挨拶（日本放射線学会 理事長 田代 聡）

- ※ 当日は昼食を配布する予定です（数量限定）。
- ※ オンライン配信は**事前申込**（10月31日締切）が必要です。
QRコードが<https://forms.gle/mt6HSWaL8TfkHBzMA>よりお申込ください。
- ※ ご不明点等は、jrrs.cbgec@gmail.comまでお問い合わせください。



日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画委員会

委員長：飯塚 大輔（量子科学技術研究開発機構）

副委員長：石川 純也（杏林大学）

委員：朝田 良子（大阪公立大学）、池田 裕子（近畿大学）、恵谷 玲央（大分県立看護科学大学）、
坂田 律（放射線影響研究所）、砂田 成章（順天堂大学）、保田 隆子（日本女子大学）、
吉田 由香里（群馬大学）

後援：男女共同参画学協会連絡会、
日本放射線影響学会若手部会、日本放射線影響学会SITプログラム小委員会



一般社団法人 日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画 活動報告

一般社団法人 日本放射線影響学会(担当: 飯塚 大輔・量子科学技術研究開発機構)

連絡先: 学会事務局 E-mail: jimukyoku@jrrs.org

Annual report on the activities for career path and gender equality in the Japanese Radiation Research Society (2022-2023)

The Japanese Radiation Research Society (Daisuke Iizuka, Research Institutes for Quantum Science and Technology, QST)

Abstract: The Japanese Radiation Research Society (JRRS) was founded in 1959. 740 members, 21.9% of whom are women, as of Jun 2023. The JRRS Career Path and Gender Equality Committee was established in 2015. Activities include holding seminars on career advancement and work-life balance, providing childcare support during the annual conference, and conducting a visibility survey of female researchers affiliated with JRRS.

1. 日本放射線影響学会について

日本放射線影響学会は、1959年、放射線の人体と環境に対する影響とその機構の解明、ならびに利用への貢献を目指して学際的な放射線科学研究を推進する場として設立されました。設立当初から、物理、化学、生物、環境、医学、工学、放射線防護、被ばく 医療などの幅広い分野の研究者が集い、分野横断的な研究交流の場としての機能を果たしてきました。学術集会として、1959年10月の第一回大会を皮切りに毎年年次大会が開催されており、2023年11月には、第66回大会(大会長 柿沼志津子(QST))が開催されます。また、学会誌として、1960年よりJournal of Radiation Research(JRR)を発行しており、2009年からは日本放射線影響学会(JRRS)と日本放射線腫瘍学会(JASTRO)の両学会の機関誌として、広く放射線科学に関連した研究成果を世界に発信しています。

本学会は、2015年4月に一般社団法人に移行しました。会員数(2023年6月1日時点)は740名(うち、学生会員は47名)であり、全体に占める女性会員の割合は21.9%、学生会員に占める女性の割合は29.9%です。2011年度より放射線科学研究の活性化と日本放射線影響学会の発展に寄与した女性研究者を顕彰するために岩崎民子賞を設けています。

男女共同参画学協会連絡会には、2016年度よりオブザーバー学協会として加盟しています。

2. キャリアパス・男女共同参画への取り組み

日本放射線影響学会キャリアパス・男女共同参画委員会は、2014年度に若手研究者支援活動の一環として設置された男女共同参画ワーキンググループを前身としています。キャリアアップを支援する活動の企画や本学会における男女共同参画の実情を把握し、支援することを目的としています。2023年9月現在の当委員会の委員数は9名(男性4名、女性5名)です。

育児中の会員の大会参加を支援するため、「託児費用援助制度」を設けております。会員のニーズをアンケートなどでくみ上げ、理事会に働きかける事などを通し、第66回大会では、大会長のご配慮により、会場内託児の設置予定に加え、一部のセッションのハイブリッド開催、家族同伴で参加される場合の同伴者パス(無料)を設けていただきました。2017年度からは、年次大会における演題発表者等の属性調査を行い、女性会員の活動度の経年変化をモニターしています。学会ホームページ内に、委員会のページを立ち上げており(下記URL)、活動状況を掲載しています。

https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html

3. 2023年度のセミナー企画について

第10回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーを11月7日(火)に第66回大会会期中にハイブリッド開催する予定です。

ICRP 次期主勧告ウェビナー

【主催】日本放射線影響学会（放射線リスク・防護検討委員会、企画委員会）

【開催日】2023 年 4 月 28 日（金）、6 月 16 日（金）、8 月 4 日（金）、
10 月 27 日（金）

【開催方法】オンライン開催（Zoom）

【参加費】無料

【定員】各回 300 名＊先着順

【趣旨】

日本放射線影響学会（放射線リスク・防護検討委員会と企画委員会による合同企画）では、この度、「ICRP 次期主勧告ウェビナー」を 4 回にわたって開催することに致しました。

前回の主勧告（ICRP Publication 103；2007 年発行）から 15 年以上が経過しました。ICRP は、これまでに蓄積されてきた最新の科学的知見を基に、主勧告の改定に向けて検討を開始したところです。次期主勧告は 2030 年ごろに発表予定といわれています。次期主勧告により、放射線防護の考え方や枠組みに関する変更が予想され、法令改正を含めた対応が必要になると考えられます。本ウェビナーでは、ICRP で活動している先生方を中心にお招きして、次期主勧告に関する最新の疫学・生物影響に関する動向を中心に解説して頂きます。

本ウェビナーを通して、1）放射線防護や ICRP の活動への関心を広げる、2）次期主勧告（疫学・生物影響に関して）で何が変わろうとしているのかを知る、3）防護に繋げるための生物研究の課題を参加者と共に見出していく、ことを考えております。

【第一回 のプログラム】

第一回（4 月 28 日（金））16:00～17:30

座長：小嶋光明（大分県立看護科学大学）

1）放射線生物研究の意義と今後期待される生物研究 16:10～16:50

講師：島田義也 先生（環境科学技術研究所）

2-1）ICRP2023 の紹介 16:55～17:15

講師：神田玲子 先生（量子科学技術研究開発機構）

2-2）日本放射線影響学会第 66 回大会の紹介 17:20～17:30

講師：柿沼志津子 先生（量子科学技術研究開発機構）

第二回（6月16日（金））16:00～18:15

座長：孫略（産業技術総合研究所）

1）電離放射線の非がん影響（眼疾患、循環器疾患、神経疾患）16:05～17:05

講師：浜田信行 先生（電力中央研究所）

2）低線量・低線量率における放射線リスク推論 17:10～18:10

講師：甲斐倫明 先生（日本文理大学）

第三回（8月4日（金））16:00～17:55

座長：小林純也（国際医療福祉大学）

1）RBE、線質係数、および放射線加重係数 16:05～16:45

講師：佐藤達彦 先生（日本原子力研究開発機構）

2）放射線の継世代影響：マウスでは観察されてヒトでは観察されない理由
16:50～17:50

講師：中村 典 先生（放射線影響研究所）

第四回（10月27日（金））16:00～18:15

座長：戒田篤志（東京医科歯科大学）

1）原爆被ばく者の固形がんにおける線量反応関係の最近の知見

講師：坂田 律 先生（放射線影響研究所）

2）医療ひばく者の健康リスク

講師：吉永信治 先生（広島大学）

【お問い合わせ先】

日本放射線影響学会放射線リスク・防護検討委員会

小嶋光明 / 恵谷玲央

E-mail: jrns.rrp@gmail.com